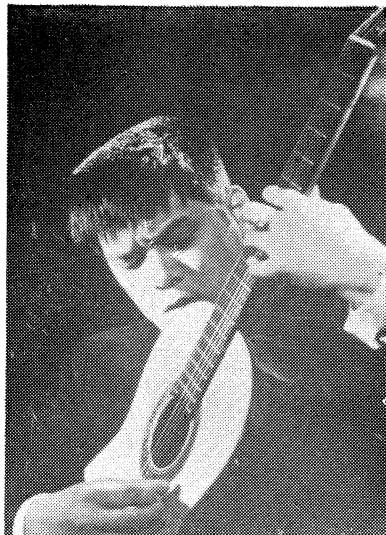


アントニオ



アントニオ古賀

8才から阿部保夫氏について、クラシック・ギターを習い、その才能が認められて5年前古賀政男氏にひきとられました。

その後、「フラメンコ・スタイル古賀メロディー」のLPでコロムビアからデビューし、35年2月に日劇「ラテン・フェスティバル」に出演したのをはじめ、60年1月サンケイホール「さよならトリオロス・パン・チヨス」にも出演し、一昨年の11月には念願のリサイタルを開くまでにいたしました。最近では、NHKテレビ「歌のグランド・ショー」に出演のほか、各地の労音例会、放送にと活躍しています。

- ギターと唄/アントニオ古賀
- 唄/高たか子
- 演奏/水野純交とグラマシー・ファイブ
- ラテンリズム/渡辺敏彦
- 司会/日下部元子

水野純交とグラマシー・ファイブ

クラリネット	水野 純交
ヴィブラフォン	上島 繁雄
ピアノ	尾島 屯
ベース	島田登代治
ドラムス	下山 忠良



リーダーの水野純交は芸大出身で、始めはオーケストラでクラリネットとアルト・サクソフーンを吹いていましたが、後、松井八郎と東京ジャイブ、南里文雄とホット・ベツパーズを経て独立し、アーティー・ショーのグラマシー・ファイブ・スタイルをオリジナルにした、スイング演奏を主体とする現在のバンドを編成しました。



高 たか子 (唄)

武蔵野音大音楽科卒業後、現在はラテンの勉強に全力を傾けています。クラシックでしつかりした基礎を身につけているだけに、充分期待される新人です。

日下部元子 (司会)

日大芸術学部放送科を卒業後、ルポ・ナレーターとして放送界にデビュー、同時にフリーのアナウンサーとして、ラジオ関東、文化放送を中心に、インタビューもの、ディスク・ジョッキー、ナレーション、CM、音楽会の司会等に活躍中。

